

[科目名] 環境ビジネス論	[単位数] 2単位	[科目区分] 専門科目
[担当者] 平井太郎	[オフィス・アワー] オフィス・アワーは設けませんので、授業中に質問していただくか、メールでお問い合わせください。	[授業の方法] 講義
<p>[科目の概要] 青森県内のさまざまな事例をもとに、地方・農村における地域づくりに関する基本的な考え方を学ぶ。特に基本にすえるのは、アクションリサーチという手法だ。実際にアクションリサーチを青森のさまざまな現場の人びとと進めた軌跡を学生と共有することで、学生自身も現場で地域づくりの担い手として活躍するためのポイントを体得してほしい。</p>		
<p>[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 現在、地域社会では、現場の話し合いを通じた課題解決が求められている。この授業が核にすえるアクションリサーチこそ、そのように求められている話し合いをうまく進める手法の1つに他ならない。</p>		
<p>[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] 地域の課題解決にむけた話し合いをうまく進めるために、「課題よりも目標」「尊重の連鎖」「周辺的な存在の連鎖的な尊重」「根をもつことと翼をもつこと」「4Dサイクル」といった基本的な考え方を学んだうえで、自分自身で実践できるようになること。</p>		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]		
<p>[教科書] 平井太郎『地域でアクションリサーチ』(農文協、2022年刊)</p>		
<p>[指定図書] なし</p>		
<p>[参考書] なし</p>		
<p>[前提科目] なし</p>		
<p>[学修の課題、評価の方法](テスト、レポート等) 毎回、講義にかんする学修成果と質問を内容とするリアクション・ペーパーを提出する。リアクション・ペーパーに記載された学修成果と質問から理解度と達成度を評価する。</p>		
<p>[評価の基準及びビスケール] 5段階(A、B、C、D、F)で評価する。</p>		

<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 学生のみなさんの素朴な疑問を大切にします。</p>	
<p>〔実務経歴〕 なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 今、なぜアクションリサーチが求められているのか 内 容: 現在、地域の課題解決をめぐる話し合いが求められている。その背景には現代社会特有の閉塞感がある。それを解きほぐす1つの手がかりとしてアクションリサーチがある。 教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): なぜアクションリサーチを通じて現場の不全感を解きほぐせるのか 内 容: アクションリサーチのポイントの1つは、グループで課題解決に取り組むと、個々人でやるよりもうまくいきやすいということだ。もう1つのポイントは、そうしたグループの力を引き出すための工夫だ。 教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 私たちにとってアクションリサーチは未知の方法なのか 内 容: アクションリサーチは戦時下の米国で生まれた。だが、日本にはほぼ同時代、戦後直後に持ちこまれていた。それから現在まで、主に農村部の女性たちによってアクションリサーチは育まれてきた。 教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 3つの空洞化を乗り越えるには 内 容: 現在の地方はヒト・トチ・ムラという3つの空洞化に襲われている。同時に、アクションリサーチが目指すのは、3つの空洞化の先にある、誇りの空洞化だ。 教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域おこし協力隊からアクションリサーチが始まる 内 容: この10年、地域おこし協力隊という仕組みが、地方に大きな力を与えてきた。特にアクションリサーチと結びつくと、地方では無理だという思い込みの打破につながる。 教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 農業栄えて農村減ぶ、をどう乗り越えるか 内 容: 農業については規模拡大や高付加価値化が必要だと言われてきた。しかし、その結果、足許の農村の人口は急減し、農村らしい祭や景観も失われている。では、どうしたらいいのだろうか。 教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 総合的な計画をどう作ったらよいか 内 容: 現在、地方自治体は国からさまざまな計画を立てるよう求められている。だが、意味のある計画を立てるのは意外と難しい。そこで頼りになるのが、田園回帰1%戦略という手法だ。 教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 目標をうまく共有するには 内 容: 地域づくりとアクションリサーチの第一歩は目標をうまく共有することだ。課題からでなく目標を見つけることが、現場に力を与える。特に大事なのは、まとめるのではなく、組み合わせるという発想だ。 教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 4D サイクルとは何か 内 容: 地域づくりとアクションリサーチの進み方の1つのモデルとして、4D サイクルと呼ばれるものがある。Discover-Dream-Design-Destine の4つを循環させる方法だ。 教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 尊重は連鎖する 内 容: 地域づくりとアクションリサーチを一步一步進めるには、現場で周辺的な存在とされている人たちが、現場の人たちから自発的に尊重する雰囲気を生むことだ。どうしたらそうした雰囲気が生まれるのか。 教科書・指定図書</p>

第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):根をもつことと翼をもつこと</p> <p>内 容:地域づくりとアクションリサーチが着実に成果を生むには、まず、自分たちの根を確かめてから、自ずと翼が生えてくるようなプロセスを踏むことが大切だ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):かけた時間は費用ではなく資本になる</p> <p>内 容:地域づくりやアクションリサーチには時間がかかる。だがその時間は無駄ではない。不確実な未来を乗り越えるための資本になるからだ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代日本の農村におけるアクションリサーチの骨格</p> <p>内 容:これまでの議論をふりかえりながら、今、農村で求められるアクションリサーチには、地域経済循環という1つの方向性があることを確認する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):安心感のある場と「コミュニティ」</p> <p>内 容:コミュニティについてはさまざまな見方がある。だが、その核心には、アクションリサーチで大事にしている安心感のある場づくりがある。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):コミュニティスタディからアクションリサーチへ</p> <p>内 容:アクションリサーチはまだそれほど知られていない手法であり学問だ。だが、その出発点は、誰しもが関心を寄せ、希求するコミュニティに対する問いがある。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	なし